

学校法人光星学院
八戸短期大学
機関別評価結果

平成22年3月18日
財団法人短期大学基準協会

八戸短期大学の概要

設置者	学校法人 光星学院
理事長名	中村 覺
学長名	蛇口 浩敬
ALO	中村 修
開設年月日	昭和46年4月1日
所在地	青森県八戸市大字美保野13-384

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
幼児保育学科		100
ライフデザイン学科		40
看護学科		80
	合計	220

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

八戸短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 22 年 3 月 18 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 20 年 7 月 28 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は「神を敬し、人を愛す（敬神愛人）」を建学の精神とし、学問を通じ、また実践を通じて地域の子弟を教育しようとする姿勢は一貫して継続され、教育目標も明確であり、地域における重要な教育機関となっている。建学の精神や教育目標に基づいて教育課程が組み立てられ、各学科とも地域社会に貢献できる実践的人材を育成するための教育課程となっている。

教育の実施体制として、短期大学設置基準に定められた数以上の教員を確保し、積極的に少人数教育を行っている。また、教員選考規程など教育の実践に必要な規程が整備されている。単位認定や学習評価は適切に行われ、教育目標達成のために教員は授業評価などを実施し、授業改善に努めている。また担任制度のこまやかな指導の効果もあって、資格取得率は高く、かつ、退学、休学、留年などの割合は極めて低い。

入学支援、学習支援共に適切に実施され、特に、日常の学生教育支援としてゼミ担任による補習授業などの個別対応も行われている。学生生活支援体制としては食堂、休息所、学生相談室、保健室、駐車・駐輪場などの設備がそろっており、キャンパス・アメニティへの配慮は十分といえる。

教員の研究を支援するためのグループ研究に対する研究助成金制度があり、研修日や研究室、研究成果の発表の機会などの研究支援体制が適切に整備され、学会発表、社会的活動も活発になされている。

多くの専任教員が地域社会に向けて公開講座を行い、地域の活性化に貢献している。また、地域に根付いた催しを当該短期大学の行事の一つと位置付けて参加するとともに、学生のボランティア参加も積極的に支援している。

理事会、評議員会共に適切に運用されており、監事は寄附行為に基づき選任され、公認会計士と連携して監事業務を果たしている。加えて、学校法人運営を円滑にするために設置された、理事長、常務理事、学長等から成る審議機関「常任理事会」が機能している。

財務体質には課題がみられるが、平成 17 年度から 28 年度にわたる「消費収支総括表比較」を策定し、改善に向けて様々な事業が展開されている。

平成4年度に自己点検評価委員会が組織され、毎年度報告書を発行して自己点検・評価活動を継続的に実施している。平成19年度からは報告書の内容をウェブサイト上で公開している。相互評価も平成14年度及び15年度に名古屋短期大学と行い、改革・改善に努めている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 毎年、各科目について、学生による記名・無記名を選択できる授業評価が行われ、結果は授業担当者にフィードバックされている。さらに、学生の授業評価結果に対して教員が反省点を整理したり、意見を述べたりできる場が設けられている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 校地・校舎面積は短期大学設置基準を充足し、運動場や情報系設備など教育環境もよく整備されて快適な学生生活が提供されている。
- 図書館は学生が利用しやすいように図書の開架方式に努めている。また、ウェブサイトを利用して図書館の開館日程、一般市民利用案内、ニュース、図書館だよりなどを提供している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 資格取得のために丁寧な指導が行われ、その結果、卒業時にはほとんどの学生が資格を取得している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 就職率が極めて高い。直近の卒業生を招く「卒業生懇談会」、就職活動の流れを体験学習する「就職合宿」(ライフデザイン学科1年次生)、一般企業就職を目指す1年次生に対する「合同企業研究会」などを就職指導の一環として行っている。あわせて個別の

学生相談にはゼミ担任が当っており、就職支援体制が確立されている。

評価領域VI 研究

- 八戸短期大学後援会から、採択制の共同研究費として毎年 100 万円が助成される制度がある。

評価領域X 改革・改善

- 平成 14 年度、15 年度の 2 年間にわたって名古屋短期大学と相互評価を行っている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域V 学生支援

- 退学・休学・留年者へのケアや、基礎学力の不足した学生及び学習スキルを身に付けていない学生への支援については個々の教員が努力しているが、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を通して組織的な取り組みを考える必要がある。

評価領域VI 研究

- 科学研究費補助金等の外部資金の導入に引き続き努められたい。

評価領域IX 財務

- 学校法人全体は支出超過が続いており、負債も多いので、財務の改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

「神を敬し、人を愛す(敬神愛人)」を建学の精神とし、学問を通じ、また実践を通じて地域の子弟を教育しようとする姿勢は一貫して継続され、教育目標も明確であり、地域における重要な教育機関となっている。

学生に対する建学の精神等の周知は学生便覧等に明記され、また校舎内の主要箇所にもその文言が掲げられて、学生が常に意識できるようになっている。新学期にはオリエンテーション時において新入生に説明がなされ、毎年開催される「父母会総会」等においても当該短期大学の方針等が説明されている。教職員に対しては教授会、教職員会議等において周知されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

幼児保育学科、ライフデザイン学科とも教養科目は必修科目の「宗教学」を始めとして現代の若者に必要な科目がそろっている。幼児保育学科では保育士資格・幼稚園教諭二種免許状取得のための専門科目が体系的に編成されている。ライフデザイン学科は地域総合科学科としての特色を十分に発揮した多彩なカリキュラムとなっている。

幼児保育学科においては保育士資格・幼稚園教諭二種免許状が取得可能な教育課程になっている。ライフデザイン学科においても、ホームヘルパー2級やレクリエーションインストラクター受験資格等、様々な資格を用意しており、学生のニーズに十分にこたえられる教育課程になっている。特に、ライフデザイン学科では数多くの選択科目を開設し、学生たちが人生のファーストステップを様々な考えられるよう配慮している。

講義概要(シラバス)は学生が理解しやすいように記述されており、オリエンテーショ

ン時には履修ガイダンスにおいて教員による詳細な説明がなされている。

毎年、各科目について、学生による記名・無記名を選択できる授業評価が行われ、結果は授業担当者にフィードバックされている。さらに、学生の授業評価結果に対して教員が反省点を整理したり、意見を述べたりできる場が設けられている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

短期大学設置基準に定められた数以上の教員を確保し、積極的に少人数教育を行っている。また教員選考規程など、教育の実践に必要な規程が整備されている。実習などのために教員の担当コマ数にばらつきがあるものの、教員はおおむね意欲的に教育指導に取り組んでおり、それを組織的に管理するシステムも確立されている。

校地・校舎の面積は短期大学設置基準を大幅に上回っており、運動場や情報系設備など教育環境もよく整備されて快適な学生生活が提供されている。また情報系の諸設備、ピアノ室等実習系の設備も整備されている。

併設大学と共用の図書館は蔵書、学術雑誌、AV 資料等が十分に整備され、学生の利用にとって非常によく整備されている。またウェブサイトを利用して図書館の開館日程、一般市民利用案内、ニュース、図書館だよりなどを提供しており、活発に運用されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

シラバスに記載されている教育目標に対して、単位認定や学習評価は適切に行われている。教育目標達成のために教員は授業評価などを実施し、授業改善に努めている。また担任制度のこまやかな指導の効果もあって、退学、休学、留年などの割合は極めて低い。幼児保育学科学生の保育士資格・幼稚園教諭二種免許状取得率やライフデザイン学科学生のホームヘルパー2級の取得率は極めて高い。

評価領域Ⅴ 学生支援

高校生が当該短期大学を選ぶ際に必要な情報がウェブサイトや入学者選抜試験要項に掲載されているほか、オープンキャンパスが適切な回数催され、その際にも当該短期大学の教育理念等が理解しやすいように提示されている。問い合わせに対しても広報担当事務職員等が適切に対応している。

入学後にはオリエンテーションのほか、一泊研修も設定し、学生生活が円滑に始められるように配慮している。またシラバスを使っての科目選択などの指導、学生便覧を使っての履修指導も適切に行っている。

日常の学生教育支援としてはゼミ担任が学生に個別に対応しているほか、基礎学力不足の学生に対してはゼミ担任が補習授業を行っている。学生指導ではゼミ担任、教務委員が連携しながら、きめ細かく指導している。

学生生活支援体制としては食堂、休息所、学生相談室、保健室、駐車・駐輪場など設備がそろっており、キャンパス・アメニティへの配慮は十分といえる。

評価領域Ⅵ 研究

教員の個人研究費のほか、採択制の共同研究費として 100 万円が八戸短期大学後援会から助成されている。

研究時間については週 1 日の研修日が確保されている。研究室も個人研究室が多く、研究支援体制は整っている。

教員はおおむね研究意欲が高い。研究成果は、幼児保育学科では「保育者養成セミナー」で発表するほか、『八戸短期大学紀要』等に発表する機会が確保されている。また後援会による研究助成の成果は報告書の形で公表されている。これら一年間の結果は学報に掲載される。

評価領域Ⅶ 社会的活動

当該短期大学の活動方針として、「教育」、「研究」と並んで「社会貢献」が掲げられている。多くの専任教員が地域社会に向けて公開講座を行い、地域の活性化に貢献している。また「流し踊り」等、地域に根付いた催しも当該短期大学の行事の一つと位置付け、学生、教員共に参加している。また地域の幼稚園、福祉施設等にもボランティアを派遣している。

学生のボランティア活動に対しては、「八戸短期大学学生表彰規程」に基づいて表彰するなど、当該短期大学は学生のボランティア活動を重要視している。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長は寄附行為に従い、学校法人を総理している。学校法人の運営を円滑にするために、理事長、常務理事、学長等から成る審議機関「常任理事会」が設置され、それが十分に機能している。常任理事会は人事、組織改廃、重要な教学の基本方針等について審議している。理事会、評議員会共に適切に開催・運営されている。監事は寄附行為に基づき選任され、公認会計士と連携して監査業務を果たしている。教授会は月 1 回適切に開催され、細かに短期大学の教学に関する事柄を審議している。ただし併設大学及び当該短期大学の全学的な教学運営は「大学運営会議」で審議される体制になっている。事務組織については当該短期大学と併設大学の事務局の一体化が進んでいる。事務組織の規模も適切である。

評価領域Ⅸ 財務

財務運営は、毎年度の予算の決定過程、手続き及び執行が適正になされ、公認会計士による中間・決算監査も監事の立会いの下、適切に行われている。財務情報は、広報誌やウェブサイト上で公開されており、開示体制が整えられている。

財務状況は、短期大学部門は平成 18 年度の消費支出比率が支出超過となっており、学校法人全体の消費支出比率は過去 3 年間支出超過が続いている。その原因として、学生生徒等納付金の減少が大きい。ただし、学校法人もこの状況をよく認識しており、平成 17

年度から 28 年度にわたる「消費収支総括表比較」を策定するなどの対応策を考えている。

短期大学に必要な施設設備に関する諸規程が整備されており、またそれに沿って施設整備が適切に行われている。

評価領域 X 改革・改善

平成 4 年度に自己点検評価委員会が組織され、毎年度『自己点検評価報告書』を発行して自己点検・評価活動を継続的に実施している。平成 18 年度からは第三者評価を受けるため、「八戸大学・八戸短期大学 認証評価申請書・自己点検評価報告書作成委員会」（のち「八戸大学・八戸短期大学認証評価統括本部」）を発足させ、学内の委員会や規程の整備等が図られた。平成 19 年度からは報告書の内容をウェブサイト上でも公開している。平成 14 年度、15 年度には名古屋短期大学と相互評価を行っている。